

## ダニにやられました、その後日談

OWCC 中川和道 20190920

2019年6月8-9日、統合初級アルパインリーダー学校のリーダー検定山行で百丈岩を登った。帰宅した次の日、右足太もも内側にダニが食いついているのを発見。夏山連絡会7月18日でのあの報告[1]となった。今回は、その後日談だ。

医者にかかったら「ウィルス感染症などの恐れが指摘され、兵庫では登山者の死亡事故もおきているので、安全のため大きく切除します」とのことで、直径10mm深さ4mmもの肉をえぐられ2針縫合した。抗生物質を5日間飲み続けて発熱や発疹がないことを確認し、お医者さんに感謝を述べてやっと無罪放免。ほっとしたのもつかの間、家族からの猛烈なブーイングがきた。家にダニを連れ込むな、というのだ。当たり前だ。そこで、第17回事事故対策会議[2]でこもればのKM田さんがお話し下さった対策を参考に、あれこれやってみた。



中川に食いついたダニ。左手親指の爪と比べて直径4mm。

「家の外で服を払ってから家に入る」：これが結構むずかしい。まず、家の外とはどこか？と考えた。そりゃあ玄関の外だろう。そこ（玄関の外）で服を払うのか？待って待って、玄関の外で服を脱ぎズボンも脱ぎ、それを振って払うのか？これはいかにも怪しいだろう。夕方に薄暗くなった玄関の外に立つと、これがまた、要らんことに、玄関灯が自動点灯するはずである。近所の方々の目にとまりでもしたら、風評被害がそれこそ怖い。いやいや、風評でなく実際あやしい。それで、私は、風呂場にまず行き、湯ぶねのわきで服を脱いでそれを振り、タイルの上に落ちるであろうダニを待ち受けた。普段は風呂ではかけない老眼鏡もこの時は必須装備だ。実際にやってみて、「これって有効かなあ」と仲間にあたずねたら、「ダニの逃げ足は速い。間に合わんかもなあ・・・。」う「っ、じゃあ、どうするねん？

今はとにかく登山の服のみを独立して洗っている。服を素早く洗剤に浸し、30分ほど漬け込んでから洗っているのだが、対策はこれで十分だろうか？

そのあと気になったのが、ザックの中身を取り出して片づける段階だ。ダニがいるザックを家に持ち込んだら、これはまずい。同じように湯ぶねのわきでザックを片づけてみたが、ダニの逃げ足は速いかもという不安は解決できなかった。そこで、次の山行では、JR道場駅前でザックの中身を全部出し、ダニフリーを確認してビール一杯としてみた。だが、これも面倒くさい。ビールを片手にじっと待つ仲間の視線も痛い。そのあとやったのが、登攀を終えて装備をザックに詰めるとき、その作業を岩の上でやること。すべての装備を一度、全部出して振り、詰め直す。ダニが逃げ出したとしてもこれなら検知できる。結局これが今のところの最善策だ。

聞けば、何人かの人々がダニにやられたとか。みなさん、対策は、どうなさっておられますか？

「お父さん、どういう手立てをとっているの？」娘の質問がこわいこの季節が、ああ、早く過ぎてくれないかなあ・・・。

文献[1] 20190718 夏山連絡会中川配布資料.docx

[2] 第17回事事故対策会議報告 『大阪労山ニュース』2019年3月号6ページ。

<http://owafnews.aikotoba.jp/jikotaisakukaigi17.pdf>